



五分だより

長崎県立鶴南特別支援学校五島分校



鶴南ごとう発表会



11月4日(土)、「鶴南ごとう発表会」が行われました。今年度は、4年ぶりに入場制限のない開催となり、多くの保護者の方や近隣の方、卒業生が見に来てくださり、子供たちもこれまで以上に生き生きとした表情を見せてくれました。

小学部は「ごとういーもん」の劇で、運動や勉強、ダンスなど、日頃の学習の成果を発表しました。9月から練習を始め、児童一人一人が自分の役に向き合い、頑張ることを決め、小学部15名が一つになり当日まで練習を重ねてきました。劇の中でのせりふや動きだけでなく、背景画の作成や、小道具作りなどにも一生懸命に取り組みました。当日は、たくさんの拍手に包まれ、子供たちの表情も達成感に満ちあふれていました。

中学部は「ばら黄門～五島の旅～」の劇をしました。「総合的な学習の時間」や「音楽」、「体育」で学習したことを劇の中で楽しく発表することができました。当日は、緊張した表情でしたが、練習の成果を発揮することができました。今回、発表会で家族の方々に見ていただいたことが子供たちの自信となり、これからの学習への励みとなることと思います。

高等部は、「五島」と「多様性」をテーマに「蒼き故郷の二部合唱」、「総合的な探究の時間の学習発表」、「『This is me』の音楽に合わせた身体表現」の三つの発表を行いました。本番では、練習の成果を存分に発揮し、見ている皆さんに私達のメッセージが伝わるよう、精一杯、発表することができました。

たくさんのご声援、ご協力、本当にありがとうございました。



小学部「ごとういーもん」



中学部 「ばら黄門～五島の旅～」



中学部バザー

休憩時間には、中学部のバザーがありました。初めてのバザーで、緊張している生徒もいました。自分たちの作ったものを買ってもらえるうれしさや感謝される喜びなどを実感できた良い経験となりました。



高等部 「This is me This is GOTO～未来を信じて～」



高等部バザー

バザーでは、生徒たちの「いらっしゃいませ～!」の元気な声が飛び交い、たくさんのお客様に高等部バザーにお越しいただきました。生徒が一息懸命作った製品がたくさん売れ、生徒たちもうれしそうにしていました。



多様性が尊重される世の中に

小中学部 部主事 西川 崇

今年度の「鶴南ごとう発表会」は、小・中・高等部が一堂に会して、盛大に行うことができました。保護者の皆さまには当日の発表の参観、中学生・高校生が心を込めて作ったバザー商品の購入など、ありがとうございました。

生活単元学習として行う「鶴南ごとう発表会」の事前学習では、児童生徒が一人一人の目標に向かって練習を重ねます。生活単元学習は、「各教科等を合わせた指導」で、国語や音楽、体育などの教科の目標や内容を合わせて指導し、教科等の内容を身に付けていきます。

小学部「ごとういーもん」では、ある児童は並べられた輪っかを友達と一緒に跳ぶ、ある児童は友達と交代で詩の朗読をする、ある児童は足し算を発表するなど、一人一人の「少し頑張ればできそうなこと」が目標になっていました。私は写真撮影を担当しましたが、児童の頑張りが披露されるたびに、「いいぞ〜。」とうなずき、涙が出そうになりました。

中学部の「ばら黄門〜五島の旅〜」は、社会科や総合的な学習の時間で勉強した五島市の課題を織り交ぜた劇の中で、せりふを大きな声で言う、楽譜を見て楽器演奏を合わせる、友達と息を合わせて対決場面を演じるなど、生徒がそれぞれの目標に向かって取り組んだ学習成果の発表でした。私はビデオカメラのスイッチを押してからは生徒たちの真剣な取組や息遣いを間近で感じたくて、舞台袖で待機し、くまモン役で出演しました。

そして、高等部の「This is me This is GOTO」のサブテーマは「多様性」でした。全員の息がそろった演技は圧巻でしたが、「人よりも声大きい。」「人前で発表するのが苦手。」「普通ってなんだろう。」という生徒からの投げかけは、見ている私たちの心に刺さりました。

今回の小中高それぞれの発表は、みんな違うけど、みんなの得意なことや頑張ったらできることに堂々と取り組んだ「多様性が尊重されている発表」であると思いました。

普通ってなんだろう？人と違っていてもいいんじゃないか？私自身、ずっと問い続けてきたことです。私は人よりも大柄な体格で、どこにいても目立つようです。体が大きいのにスポーツが得意でない。体が大きいのに酒が飲めない。大阪人なのにおもしろいことを言わない。昔は先輩や同僚、身近な人からそんなことを言われ続けるのが苦痛で、少しでも小さな体になりたくて、気付いたら猫背になり、大阪弁も隠していました。時代は昭和・平成から令和へ。今では「先生、その体を生かしてサンタクロースをお願いします。」「先生、飲めない分いっぱい食べてね。」と同僚からも多様性を認められ、生きやすい気がします。

「多様性の尊重」とは、「性別や年齢、国籍、障害の有無、性的指向、宗教・信条、価値観などが異なる人々の属性を尊重する考え方」のことです。そして、福江小学校の中にある小中学部、海陽高校の中にある高等部は日本でも「インクルーシブ教育」の先進校だと思います。「インクルーシブ教育」はそれぞれの子どもがもっている多様性を活かして、共に成長していくことだと思います。地域の中で成長する子どもたち。今後ますます多様性が尊重される世の中になることを確信した、鶴南ごとう発表会でした。

